

設 立 趣 旨 書

平成21年 3月14日

特定非営利活動法人 スマイル・ステーション
設立代表者 住所 茨城県つくば市松代5丁目9番地10
氏名 松 浦 幹 司 印

1. 趣 旨

特定非営利活動法人 スマイル・ステーションは、人と人、人と街、街と街をつなぎ、笑顔あふれるヒューマン都市を作り、成熟した市民社会の実現をめざし、市民と行政等とが協働した「まちづくり=人づくり」の理念のもとに市民参加のまちづくりを目指し、地域の振興を図るとともに活動を推進しながら、公益の増進に寄与することを目的に設立することとした。

つくば市は、わが国最初の研究学園都市として建設され、一昨年(平成20年)市制20周年を迎えた。現在、人口はすでに20万人を越しているが、平成17年夏に開通された新鉄道「つくばエクスプレス」により東京との移動距離が大幅に縮まり、今なお人口が増加し続ける魅力的な都市として発展しつつある。

先端的な研究技術の開発を目的に巨額の予算を投入して建設された都市であることから当然のことであるが、つくば市に対するこれまでのイメージは「科学、研究、学問の街」という硬いイメージが突出していた。しかし、つくば市は筑波山を中心とした自然と緑と豊かな田園にも恵まれており、万葉の時代から住みついた人々によって育まれた文化と、少なからざる史跡にも恵まれた都市である。つくば市も、こうした先端科学と自然と田園を兼ね備えたつくば市の魅力をアピールすべく、市制20周年を機に「つくばスタイル」と銘打ちイメージの一新につとめ始めたところである。

このような特色と魅力に加え、つくばは、多様多彩な人々が共存する地域としての特色も有している。多様多彩な人々とは、多くの研究所で先端科学に従事する研究者たちであり、大学などの教育機関で教える教師集団であり、大学などで学ぶ学生であり、保育園や幼稚園に通う子どもたちであり、小学校、中学校、高校で通学する児童生徒であり、美味しいと評価の高い農産物を生産する農業従事者たちであり、筑波山を訪れる観光客を相手に観光業を営む人々であり、各種店舗を営む人たちであり、企業で働く人たちであり、東京などに通勤する人たちであり、近郊から出勤してくる人たちであり、外国から研究と勉学に来日している人たちであり、そうした人々と住まいを共にする家族である。

以上の人と行動の広がりを踏まえて、筑波山を展望できる周辺地域を スマイル・ステーションでは「つくば」と呼ぶこととし、活動の場とした。

つくばに住まう多様で多彩な人々は、それぞれの特徴や能力を活かし、つくばをより住みよい街にすべく、様々な活動を開始し展開しているのは好ましいことである。しかし、現在、こうした活動も個々の活動に留まり、魅力と可能性を活かしきれない嫌いがある。魅力と可能性

を十全に発揮するために、次の3つのことが考えられる。

(1)多様で多彩な人々が出会い交流する契機や場を創出すること、(2)つくばの魅力と特徴を周辺地域(全国)に向けてアピールし、ネットワーク作りのためのイベントや催しを行うこと。そして、(3)そのためには場をつくり、イベントを企画し、実行する組織や団体は不可欠である。

「スマイル・ステーション」はこのような役割を担い、つくばの可能性と魅力を最大限に発揮させることを目的に設立するものである。このような目的を端的に言えば、「つくばを、人と人、人と街、街と街をつなぐ拠点とし、笑顔と人間味に溢れたヒューマンな都市として変貌させ、魅力を高めること」となる。

「スマイル・ステーション」はすでに、平成21年2月7、8日の2日間、つくば市内のショッピングセンター・デイズタウンを会場に、「笑顔市」を企画実行した。短い準備期間にもかかわらず、多くの市民、団体、企業等の協力と協賛を得られ実行することができた。2日間で約1600人の来場者を数えることができ、大盛況をみることは、このような催しがなされることを待ち望んでいた市民が多かったことを物語るものである。

笑顔市を企画し実行する過程で、つくばはもちろんのこと、多くの団体や企業、個々の市民に協力をお願いすることになったが、予想していたこととはいえ、まったく新しい任意団体のため社会的信用も弱く、契約締結などの経済活動には法人化が必要と強く感じた。このような経験をしたことで、法人団体としての認証を受けることが今後の活動にとって不可欠であると考えた。

当団体は、営利を目的としていないことから、特定非営利活動法人が適正と考え、設立することとした。

その活動を広く市民に支えられながら、継続的に運営していくために特定非営利活動法人スマイル・ステーションを設立するものである。

2. 申請までの経緯

・平成20年8月

街づくり活動を進める上で色々なものを“つなぎたい”というテーマで5人のメンバーが集り、議論を始めた。

・平成20年9月

日本全国で「溜まり場によるコミュニティづくり・まちの駅」を展開している東京の「NPO地域交流センター」を訪問し、状況を聞いた。各地の「まちの駅」の事例は商店を中心とした駅で構成されており、考え方とかテーマでつながるようには見えなかった。

しかし、駅というイメージは相通じるところがあり、団体名を「スマイル・ステーション」とし、企画書案の作成を始めた。

「人と人、人と街、街と街をつなぐ」ことを目的とし、当初はステーションのイメージから団体の機能を次のように考えた。

- ① 窓口・案内機能(きめこまやかなガイド)。
- ② 展示・物産販売機能(つくばの縮図化)。
- ③ 交流サロン機能(人と人をつなぐ)。
- ④ 講座・学習機能(市民、研究所、大学の知識を活用)。

⑤ 人材活用機能(OB人材でつくばビジネスの創設・出前講座の実施など)。

⑥ つくば市内観光ツアー機能(テーマ毎のコースの設定とガイドの育成)。

(①～⑥まで総合した機能を持つ組織は つくばでは見当たらなかった。)

・平成20年10月

①～⑤の機能を⑥のツアー事業で行い、別途、駅の周辺には市が立つとの故事から「笑顔市」の構想が生まれた。

・平成20年11月

「笑顔市」の実行委員会を組織し、実行にむけ準備活動に入った。

・平成21年1月

特定非営利活動法人設立準備会開催

・平成21年2月

2月7日、8日「笑顔市」の開催。

大盛況に終わり、参加者から次回は何時かとの声があがる。